

こうとう民報

2012年 9月号 95

江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発行
こうとう民報編集委員会
責任者 猪又 武夫
住所 江東区東陽2-3-5-203
電話3648-5155 FAX3648-5137
ホームページ
http://www.koto-minpo.jp/

全労連地域労組こうとう第4回定期大会

一人ぼっちの労働者をなくそう!

組合員110名を突破、新たに3分会が誕生



写真上段：新しい執行部役員を紹介
下段：大会後の交流会

9月15日、全労連地域労組こうとう第4回定期大会が森下文化センターで開催されました。地域の労働組合とうが、地域に根差した個人組合員数は、110名を超え、三つの職場に分会が誕生するなど発展しています。

川村書記長は一年間を振り返り「組合加入は主として労働相談で加盟している」とその特徴を報告しました。労働組合への加入は、労働相談を通しての加入が多く、今回は新木場と東陽町で配布したホットライン（リーフ）を

見ての加入者もいたことが報告されました。相談内容も、再雇用条件をめぐる不利益な取扱、解雇予告手当未払い、組合員であることを理由に再雇用の賃金の切り下げ、退職金など悪質な事例が増えていることが紹介されました。

労働相談と労働者の利益を守るため、組合員を110名まで拡大組織してきた。また、三つの職場で複数の組合員が組織され、分会が結成されました。

執行委員長に新たに小倉一男氏を選出、書記長は、川村好正氏が再選されました。



この行動には、区内の民主団体や労働組合など14団体53名が参加しました。

事前に「憲法改悪に反対し、憲法9条を守り、平和のために生かすことを求める署名」と「アスベスト被害の全面救済と根絶を求めて公正判決を請署名」の2つの用紙を届け、当日訪問しながら回収する行動を行いました。

ドアに署名を貼り出してくれたり、その場で署名してくるなどで、憲法署名は、546筆、アスベスト署名は、480筆が寄せられました。

「憲法9条を守る団地署名行動パート5」

「ドアに署名用紙が...」 東砂2丁目都営住宅で

区民要求実現江東大運動実行委員会は、9月9日（日）、「憲法9条を守る団地署名行動パート5」を東砂2丁目都営住宅で行いました。



9月20日から区議会定例会が始まりました。今定例会は、民主党政権と自・公の3党合意で、消費税増税と一体に保育や障害者、年金、医療、介護などの社会保障を根本から変える法律が成立した後だけに、共産党区議団は「区民生活を守るために、自治体の長として政府にものを言え」と区長の姿勢を質す本会議質問を多く行いました。

消費税増税の中止を求めよ

消費税増税問題では、法律が成立した後に「増税の実施中止」を求める世論

「消費税増税と社会保障の一体改革」
自治体の長として政府にものを言え

が広がっていること。「社会保障のため」というのは国民を欺く口実であったことから「増税実施の中止」と、「消費税に頼らない財源確保を政府に求めよ」と迫りました。

区長は「はじめて導入された時の世論と比べると反

生存権保障の否定を許すな

一緒に成立した「社会保障制度改革推進法」については、憲法25条による生存権の保障を否定し、国の社会保障の増進義務を投げ捨てる「社会保障解体宣言」

公的保育制度を守れ

保育関係者から強い反対運動が続いている「子ども・子育て新システム」の強行について質問しました。

同じく3党合意で可決したこの法律では、保育に対する国と自治体の責任が後退し、親の自己責任で保育所を選び保育料負担も増える

保育関係者から強い反対運動が続いている「子ども・子育て新システム」の強行について質問しました。

同じく3党合意で可決したこの法律では、保育に対する国と自治体の責任が後退し、親の自己責任で保育所を選び保育料負担も増える

「実施の中止・撤回を求めよ」との質問に対し、区は「円滑に移行できるよう検討していく」「応能・応益負担で質の高い保育ができる」「詳細は不明であり、現段階で中止を求めることはしない」「国の動向を見守る」と消極的な答弁です。

「可能性があること。また、株式会社への参入も拡大され、小規模保育所も「保育所」となり「保育の質の確保」も困難になるなど、これまで築き上げてきた公的保育を中心とした保育制度を大きく変えるものとして、実施には大きな問題があります。

潮騒

暑さ寒さも彼岸まで。炎暑が続くなかでも朝夕に秋の気配を感じるようになりまし。政

界では、自民と民主両党が総選挙に向けて、政権をめざし国民不在の党内闘争に血道をあげています。自民党・総裁選の5人の候補者の政策は大同小異で、憲法改悪で一致しています。河野洋平元総裁は「かつての党は改憲も護憲もあつた幅広い保守党、今では右翼になつてしまった」と嘆きます。分裂・離党が相次ぐ民主党代表選では、「自民党野田派」とまで決めつけられ、参院で問責決議された野田首相が再選されています。泥舟のように沈没するのも時間の問題でしょう。マスコミが持ち上げる橋下「日本維新の会」は、靖国派の安倍元首相や石原都知事と連携し、自民、民主、みんなの党からの脱党議員を取り込み「選挙に勝てばなんでもできる」と、国の形を変え、地方自治を破壊する強権的統治政権をつくらうとしています。内憂外患の危機に乘じたファシズムの台頭は、切実な歴史の教訓です。諸政党の中で唯一、安保に縛られアメリカ・財界の言いなりの政治からの転換を掲げる日本共産党は、被災者支援をはじめ、増税、原発、TPP、オスプレイなどで草の根の力を集めた一点共闘の要となつています。この党を強く大きくして危機をチャンスにかえようではありませんか。

「野菜の栽培」

式亭三馬「浮世風呂」の挿絵



概説

江東の歴史

(14)

深川の隅田川沿いは大部分が町屋や武家屋敷になり、農業の中心は「十万坪」で特産は摘み菜です。信州野沢から移ってきた勘右衛門が蔬菜の種を蒔いて芽のうちに摘みとり、蕎麦屋で喜ばれて大量に生産したといひます。

亀戸、大島は水田が中心でしたが、水神森附近での亀戸大根が名産品となり、今でも亀戸の一つのシンボルになっています。

野菜栽培の中心は砂村です。海に近く土地がアルカリ性で水田に適していなかったため、大部分は畑でした。1660年代、中田新田（東砂）の松本久四郎（因速寺に墓）が野菜の促成栽培を考案、3月中旬に茄子胡瓜、いんげん豆を将軍家に献上して評判となりました。彼は日本橋の魚市場から出る「江戸ごみ」（魚のあらや切り落とし）を用い、温床を油紙で覆い炭火を利用して他より早い季節に「はつもの」として市場に出しました。砂村は日本における温床栽培の発祥地です。

砂村の名産として、西瓜、南瓜、小松菜、ほうれん草、ねぎなどの他に、将軍吉宗の命により琉球の砂糖黍（きび）も栽培しました。

これらの砂村野菜は当時の狂歌や川柳にうたいこまれています。

～砂村はかっぱで暮の尻をふき～

砂村では胡瓜を売って大晦日の借金を払ったと伝えています。

～初茄子をどぶへぶっこむあずまっ子～

茄子の漬物は江戸市民に珍重されました。

主な肥料は人糞でした。多くの肥船で川を運ばれていました。

～肥船や白帆つらねて麦の秋～（川端茅舎）
（注）マルクスは資本論の中で、日本などの農業での「排せつ物の利用」について「日本で見られるような園芸的に営まれる農業でも、確かにこの種の節約が行われている」と述べています。（資本論第3巻第5章「不変資本充用上の節約」）

亀戸事件 89周年追悼会

忘れない！国家権力による犯罪を！



挨拶をするあぜ上三和子都議

9月2日、亀戸事件89周年追悼会が浄心寺で開かれ、団体や個人70余名が参加しました。

亀戸事件は、1923年9月1日、関東大震災が起きる中で、当局がデマを流し、朝鮮人や社会主義者が暴動をたくらんでいると、朝鮮人を追い立て殺害。さらに被災者救援のため活動中だった川合義虎（共青初代委員長）ら10人

を不当逮捕し亀戸署に留置。その後、軍隊によって虐殺されたものです。

東ひろたか追悼会実行委員長が「大震災の混乱に乗じて共産党と労働組合を破壊するために、活動家を逮捕し、虐殺するという国家権力による犯罪で、何年たっても忘れることができない。国による真相解明と責任を追及する」と挨拶。

あぜ上三和子都議は「野田内閣の暴走と、民主・自民・公明の『談合政治』による消費税大増税と社会保障を解体する悪法に、国民の怒りの渦が広がっている。政治革新のために、総選挙・参院選、都議選での日本共産党の躍進で政治を変える」と決意を表明。林竜二郎民青同盟副委員長は、「川合義虎・共青初代委員長は『青年が動くとき勝利の光あり』。未来は青年のもの」と言っていた。先輩方の

意志を引き継ぎ、希望ある社会を自らの運動で勝ち取る」と決意を述べました。

治安維持・国家賠償同盟、山崎元東京本部長は「改めて亀戸事件の蛮行は、亀戸警察と結託した習志野連隊による

第20回 うたごえ交流会

明るい未来を切り開く第一歩を！



加者で開催されました。

青柳浩二実行委員長は「政治はひどい状況にあるが、みんな楽しんで、被災地の復興を願い明るい未来を切り開く第一歩にしていきましょう」と挨拶。

職場、地域、女性、年金者、障害者など13団体が参加し、日頃の練習を重ねた歌声を中心に、ダンス、アコーディオン、コカリナ、そして野田政治への風刺がきいたオツペケなど、楽しさあふれる交流会となりました。

今回で7回目となる日本共産党青年後援会とハッピーライフをつくる愛と平和の青年よせ鍋隊共催の青年学習合宿。9月1日から2日、栃木県佐野市のあきやま学寮に行ってきました。

この合宿は学習と交流が目的です。学習では初日は『空想から科学へ』を足がかりに

青年学習合宿

学びと交流で楽しく未来へ！



しながら現代の貧困を学び、2日目は橋下『維新の会』の問題点などを学びました。交流では、バーベキューをしたり、夜通しの語り合いもありました。また子どもたちが多いのも、この合宿の特徴です。1回目の時には、赤ん坊だった子も、今ではランドセルを背負う年に。

普段、自然の中で過ごすことのできない子どもたちにとって、川で泳いだり、バーベキューをしたり、たくさん子どもたちと過ごす、貴重な体験の場となっていると思いました。（山本真さんの寄稿）

行事日程

10月1日（月）19時

社保協学校「脱原発という生き方を語る！」講演・山本太郎 総合区民センター・レクホール（主催：江東社会保険推進協議会）

10月22日（月）18時半

「大阪・橋下『維新の会』とは？」講演・小森陽一

ティアラ江東・大会議室（共催：江東革新懇主催・大運動実行委員会）

10月27日（土）12時半

「区画整理・都市再開発対策全国研究集会」

砂町文化センター（主催：NP 法人区画整理・再開

発対策全国連絡会議）